

# IDACAだより

第5号 平成23年 11月 1日

● 編集発行  
(財)アジア農協振興機関  
東京都町田市相原町 4771  
TEL: 042-782-4331  
FAX: 042-782-4384



## <新理事長就任あいさつ> ～発展途上国の協同組合運動と農民組織活性化に向けて～

アジア農協振興機関  
理事長 萬歳 章

東日本大震災とそれにともなう原発事故は未曾有の被害をもたらしました。JAグループは震災発生直後から安否をはじめ被害状況の把握や人的・物的支援、義捐金など、最大限の取り組みを続けており、被災地の一日も早い復旧・復興が切望されます。一方で、大震災を契機に「人と人とのつながり、助け合い」という協同組合の相互扶助の理念のすばらしさが見直されてきています。

IDACAの歩みは半世紀を迎えつつありますが、これまで受け入れた研修員数は5,600人を超えました。研修員の中には、アジア諸国の政府の要人として、また農業協同組合の指導者として活躍されている方も少なくなく、IDACAのアジア地域等での農業協同組合運動の発展、農民の所得向上に向けた人材養成研修は、内外から高い評価をいただいています。「発展途上国の協同組合運動に従事する指導者のため、わが国の農協運動の中での学習機会を設け、国際社会の中で連帯性を育む場」として当機関の設立に尽力された当時全国農業協同組合中央会会長であった荷見安氏の卓越した先見性に尊敬の念を禁じえません。

今、世界経済社会は市場原理主義の潮流にあります。国連は2012年を国際協同組合年と制定しました。このことは、国連が人間の組織であり民主的に運営される協同組合の役割に大いに期待し、協同組合の育成と成長を世界に奨めるものです。

IDACAとしても、協同組合運動を担う人材の養成を通じ、アジアを中心とする途上国そして世界との共生に貢献していくとともに、相互の望ましい発展に向けて研修員がわが国の農業、農協のよき理解者として育つようさらに努めてまいります。

### <目次>

- 新理事長就任あいさつ ..... 1
- 研修事業の報告 ..... 2
  - ICA 農産物品質・安全管理研修
  - JICA 農業政策企画コース
  - ICA 農村女性地域活性化研修
- 新常務理事就任あいさつ ..... 6

## &lt;研修事業の報告&gt;

**(1) ICA農産物品質・安全管理研修**

当機関では ICA と連携して、2011 年 7 月 11 日から 8 月 4 日の期間、農産物の生産性及び所得向上に資するため、農産物の品質管理や安全性管理を担う流通専門家の育成支援を目的として「第 1 回 ICA 農産物品質安全・安心管理研修」を実施しました。

本研修にはメコン河流域国や南アジア諸国の後発開発途上国から行政官、農協職員、農家など 11 カ国 16 名が参加いたしました。

当機関での座学中心の研修で JA グループが取り組んでいる農産物販売システムと食の安全管理システムなどについて学んだ後、現地研修で奈良県を訪れ JA ならけん及びその関連施設、奈良県農業総合センターを訪問さ

せて頂きました。研修の最後に、研修員は研修の成果として自国で実践するアクションプラン(行動計画)を策定しました。



野菜生産農家のお宅訪問(JA かながわ西湘管内)

**「農産物品質・安全管理研修」を受け入れて**

JA ならけん

組織広報課参与 西田 佐徳

この度、アジア農協振興機関のご紹介で、アジア 11 カ国から参加の研修員 17 名を受け入れました。昨年の当 JA 女性部の「ICA 農村女性起業活動支援研修」受け入れに続いて 2 年連続の現地研修となりました。

今回の研修では、農産物の品質・安全管理ということで、当 JA の生産履歴記帳運動などの取組み、県農業総合センターでの研究紹介を主とし、JA の施設見学、茶や花卉の生産農家訪問などの研修を行ないました。

この中、稲の疎植栽培の説明や茶の研修などでは質問が多く出るなど、同じアジアの国々との認識を強くしました。小菊の集荷施設では、JA 職員による花の検査に大きな関心を寄せており、日本の JA の役割について認識を新たにされたようでした。

また施設研修では、セレモニーホールも見させていただきました。日本のような葬儀という儀式がない国もあり、JA が葬祭事業をすることへの驚きがあったようです。



前列向って左端(西田氏)

今回の研修では、アフガニスタンやブータンなど 11 カ国もの国からの研修員となったことから、宗教の違いなどにより食文化も多岐にわたっていることを実感しました。



### 食の安全はブータン消費者の志向

ブータン農業省農業局  
精米担当部長 チョグヤル

私が出会った日本人はみな、礼儀正しく、親切で日夜忙しく働いているという印象でした。しかしながら英語でコミュニケーションをとる事があまり得意ではなかったため、ボディランゲージを駆使して私を助けてくれました。驚いたのは街がとてもきれいで安全な国であるということでした。

研修を通して次のようなことを学びました。

- 協同組合の設立に際しては、農民と農村地域の結束を支援するために協同組合原則の遵守が不可欠であること
- 農民の信頼を得るためにはまず彼らに指導に自信があることを示し、効率的に彼らを導いて行く必要があること
- 積極的に様々な情報や知識を習得し、適切な指導を行うことが農家の所得向上につながる
- 農民が働く現場まで出向き、彼らが抱える問題や要求などを理解し対処すること

この研修は私に様々な知識を得る貴重な機会を与えてくれました。農産物品質安全性管理というテーマは今後の私の仕事にとっても有用です。なぜならブータンの消費者の動向は有機農業を含む食の安全性の方に向いているからです。

奈良県での現地研修では JA の事業活動の視察を通して最前線の知識を得ました。最もインパクトがあったのは自国でも設立可能なファーマーズマーケットです。

## (2) JICA「農業政策企画」コース

昨年度に引き続き、JICA より集団研修「農業政策企画」コースを受託し、8月30日から9月21日までの研修を当機関が担当しました。

アジア、アフリカ、南米の11カ国から16名が参加し、各国の行動計画素案の発表から技術研修が開始されました。その後、農林水産省及び当機関での国段階の政策、農協組織、農村金融、そして農産物流通に関する講義、生産基盤となる水利用に関わる土地改良区への視察、県段階の政策と農業振興事例研究としての高知県での現地研修が実施されました。研修の最後に、問題分析・改善策検討の為にPCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)

手法を活用し、各国の農業政策への提案としてのアクションプランが作成されました。



JA高知春野管内園芸農家圃場視察



### 組合長の熱心な受入れで様々な施設見学が可能に！

高知県農業協同組合中央会  
参事 久岡 隆

久しぶりに IDACA からの依頼を受け現地研修を本県で受け入れました。今回の研修目的は、県と農業団体の農業政策の連携、農産物の流通ということで、県の農業政策課と中央会から県内農業についての説明と県農業技術センターの見学をしていただきました。現地研修では従来から受け入れ研修でお世話になっていた JA 高知春野～高知県園芸連という青果物の生産から集荷、県外市場へというルートを見てもらいました。あいにく 9 月上旬だったため青果物そのものが圃場にも集出荷場にもありませんでしたが、一連の流れは理解いただけたと思います。

また、今回は農産加工についての現地研修もということで、四国山地のど真ん中にある JA 土佐れいほくを初めて選定しました。組合長の熱心な受け入れによって、ユズ加工施設だけでなく畜産農家や JA 女性部の運営する米粉パン販売所、農産物直売所を見ていただきましたし、四国の水瓶（みずがめ）といわれる早明浦（さめうら）ダムの湖畔で昼食をとり、ダム堰堤の中まで見学をさせていただくというオマケ付きで、たまたま随行する機会を得た私も初めてダム内を見学させていただきました。

ダム湖の美しい風景を見た研修員は、「どうして観光客がいないのか？わたしの国なら平日でもたくさんの観光客が来るだろう。」と不思議がっていたのが印象的です。



### イラクと日本とのギャップに驚きの連続

ダフーク県農業部 企画・事後調査部  
部長 ルクマン・イスマエル・アブドゥラ・ムフティ

早朝にイラクを発ち、ヨルダン、ドバイを経由して東京のホテルにたどり着いた時には翌日の夜 9 時半を過ぎていました。土曜日の夜でしたので、翌日は完全なフリー。知っている人も他の研修員もおらず、お金もなく、おまけに持参したコンピュータは差込口が合わず使えず、なぜこんな研修に参加してしまったのだろうと後悔しました。しかし月曜日から研修員の数も増え、JICA の監理員も来て世話をしてくれたので落ち込んでいた気持ちから立ち直ることができました。

IDACA での研修は農業政策立案のための理論的な講義ばかりでなく、現地視察も組み入れた分かり易いものでした。最初は講義と現場とがどのように繋がるのか理解するのが難しかったですが、徐々に分かるようになりました。しかし、研修に参加した殆どの国の状況と進んだ日本のシステムとの間には大きなギャップがあり、もちろん非常に参考になりましたが、全てを模倣することは不可能だと感じました。

IDACA のスタッフは皆親切で、自然豊かな宿泊施設もとても快適でした。イラクのクルド地区も日中は 45℃くらいまで気温が上がりますが、夜には 20℃くらいまで下がり過ごし易くなります。しかし日本の夏は昼と夜の温度差が殆どなく、湿度も高くこれだけは好きになれませんでした。

**(3)第 1 回ICA農村女性地域活性化支援研修**

今年度より新たにスタートした「第1回ICA農村女性地域活性化支援研修」は地域を活性化する上で重要な役割を担う農村女性の起業活動コーディネーター等の人材育成を研修の主な目的として、9月25日から10月20日まで当機関において実施されました。メコン河流域や南アジアの13カ国から17名、行政組織や協同組合などから元気な女性リーダー達が参加し、JAやJA女性組織が地域社会に果たす役割や、女性による様々な起業活動の事例などを学びました。

現地研修では佐賀県を訪問し、県中央会での講義、JAさが管内の施設見学に加えて、JAさが白石地区女性部との交流会などで女性同士の親睦を深めることができました。

本邦研修の前に第三国研修としてタイにおいて8日間、現地視察を中心とした研修があ

り、タイや日本で得た知識や経験を基に、自国における農村女性のグループ活動、起業活動強化のためのアクションプランを作成しました。



**JAさが白石地区女性部の皆さんとの交流会  
いただいたえみ(笑味)ちゃんエフロンに研修員大喜び!**

**国際交流を女性部の意識啓発に!**

JA さが白石地区女性部  
部長 大串 美津子

ICA 農村地域女性活性化支援研修の現地研修が10月11日から3日間、佐賀県でありました。この中でJAさが白石地区女性部は「女性部と研修員の交流会」の企画・運営に取り組みました。

8月に受け入れの打診があり「喜んで受け入れさせていただきます」と返事をしたものの、事の重大性を後から痛感しました。

少しでも喜んでもらえるように、輻輳(ふくそう)する行事の合間に、事務局との打合せやリハーサルを行い、交流に臨みました。

交流会の当日は、JAの「ふれあいセンター」で郷土料理や研修員のお国料理を、身振りや手振りを交えて全員で作りました。研修員にはお礼にと歌やダンスも披露していただきました。

当初の心配とは裏腹に始終、和気あいあいとした雰囲気だったことに大変嬉しく思いました。今回のこの貴重な体験は、女性部員の意識啓発を促し、組織の拡充につながるものと思っています。

このような、国際交流の場を設けていただき、心から感謝いたします。ありがとうございました。



## 日本が大好きになりました！

ラマック多目的協同組合  
参事 エレナ・リモコン

32 日間に亘る ICA 女性研修に参加し、本当に多くの事を学びました。日本での研修で印象に残っているのは、行政と JA、地元住民とが一体となって地域活性化に向けた取り組みをしている「道の駅八王子滝山」の訪問と、佐賀県での現地研修です。特に佐賀県では JA が地域に果たす役割の重要性和きめ細かい農家組合員や組合員組織へのサポートが理解できました。また JA 女性部の皆さんとの料理交流会も忘れることのできない思い出です。このような価値のある研修に参加できて本当に幸運だったと思います。17 名の参加者が一緒に学び、日々の生活を共にし、心配していたホームシックになる事もなく、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。皆日本が大好きになり、帰国するのがとても辛く感じています。

IDACA での講義や現地視察を通して得た知識や経験はアクションプランを作成する上で大変参考になりました。自国に帰ってこのプラン実現に向け、努力していくつもりです。

今後とも日本政府がアジア諸国の農村女性のために財政的支援をしてくださり、このような研修が継続されることを願って止みません。



## 新常務理事就任あいさつ ～ 人材育成を通じたアジア戦略の意義を考える ～

IDACA 常務理事 平岡 啓治

去る 8 月 24 日開催の IDACA 評議員会・理事会において、前任の芦刈常務理事の後を受け、常務理事に選任されました。

平成 20 年 4 月に JA 全中から JA 全農に転出後、本年 7 月末まで、JA 全農の地区担当常務理事を拝命し、北海道・東北地区の JA 関係者には大変お世話になりました。折しも東日本大震災が起こり、復旧・復興に向けて現場の JA と全国本部の懸け橋となるべく一生懸命やらせていただきましたが、私自身の力不足を思わない日はありませんでした。

一方では、協同組合の仲間の絆の重さや大切さが心に深く刻まれた数か月間でした。当機関の研修コースの開講式では、まずもってアジアを始めとした諸外国の協同組合セクターの人達からの様々な援助に対するお礼のご挨拶を申しあげています。

現在の WTO・EPA・TPP 交渉の展開にみられるとおり、GATT-UR 時代のような米国-EU の 2 極だけで物事が決められていく世界情勢ではありません。如何に日本がアジアを仕切れるか、リーダーシップを発揮できるかといったことの重要性が増すばかりであります。

このような情勢を念頭に置きながら、当機関の設立趣旨を踏まえ、人材育成を通じたアジア戦略の現代的意義を問い直しつつ業務にあたる所存でございます。

JA 関係者の皆様方による力強いご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げご挨拶とさせていただきます。